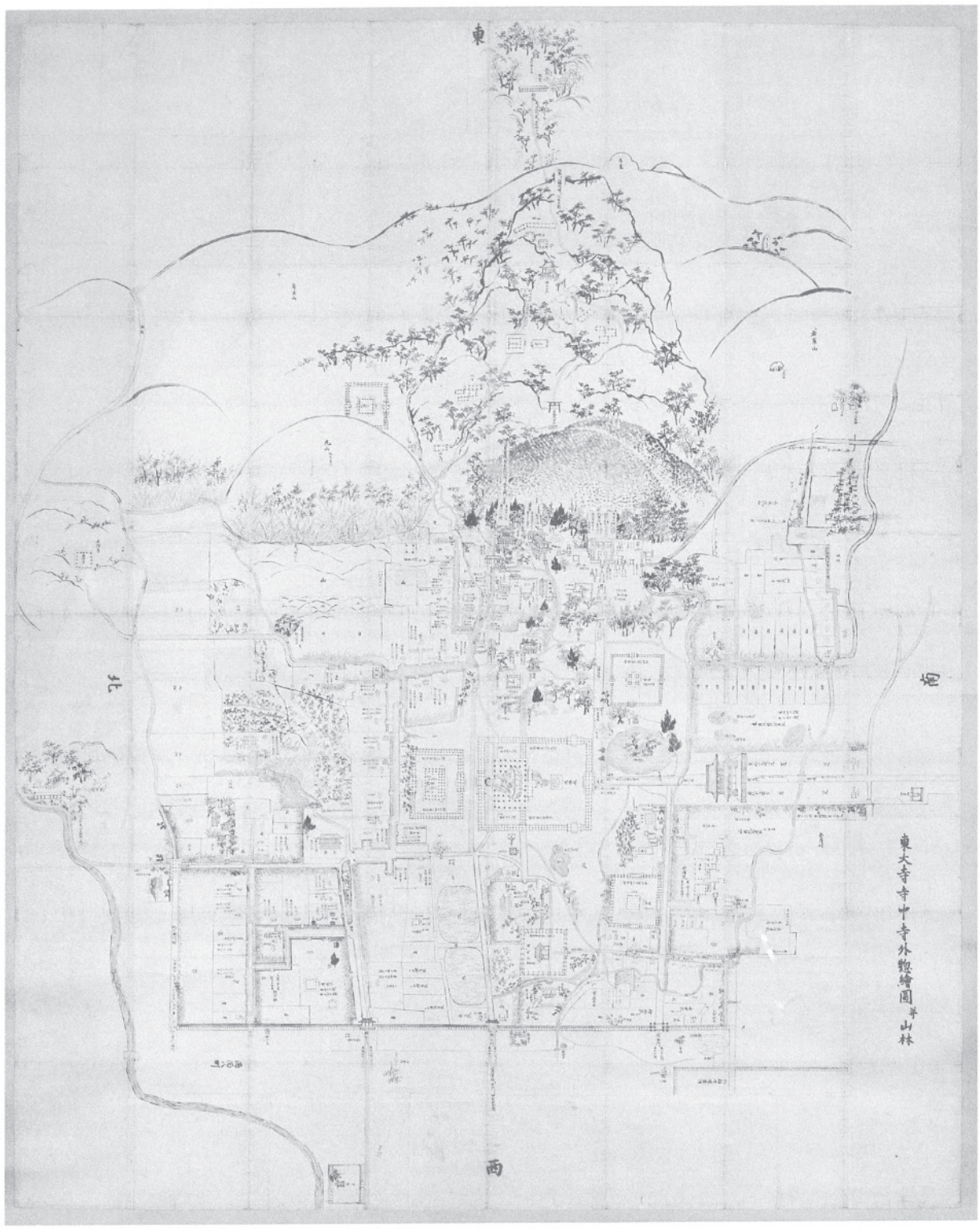
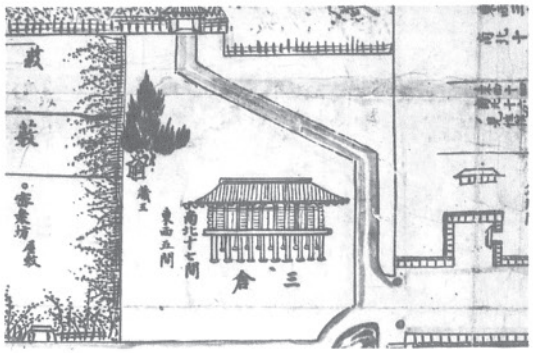
七、絵図類



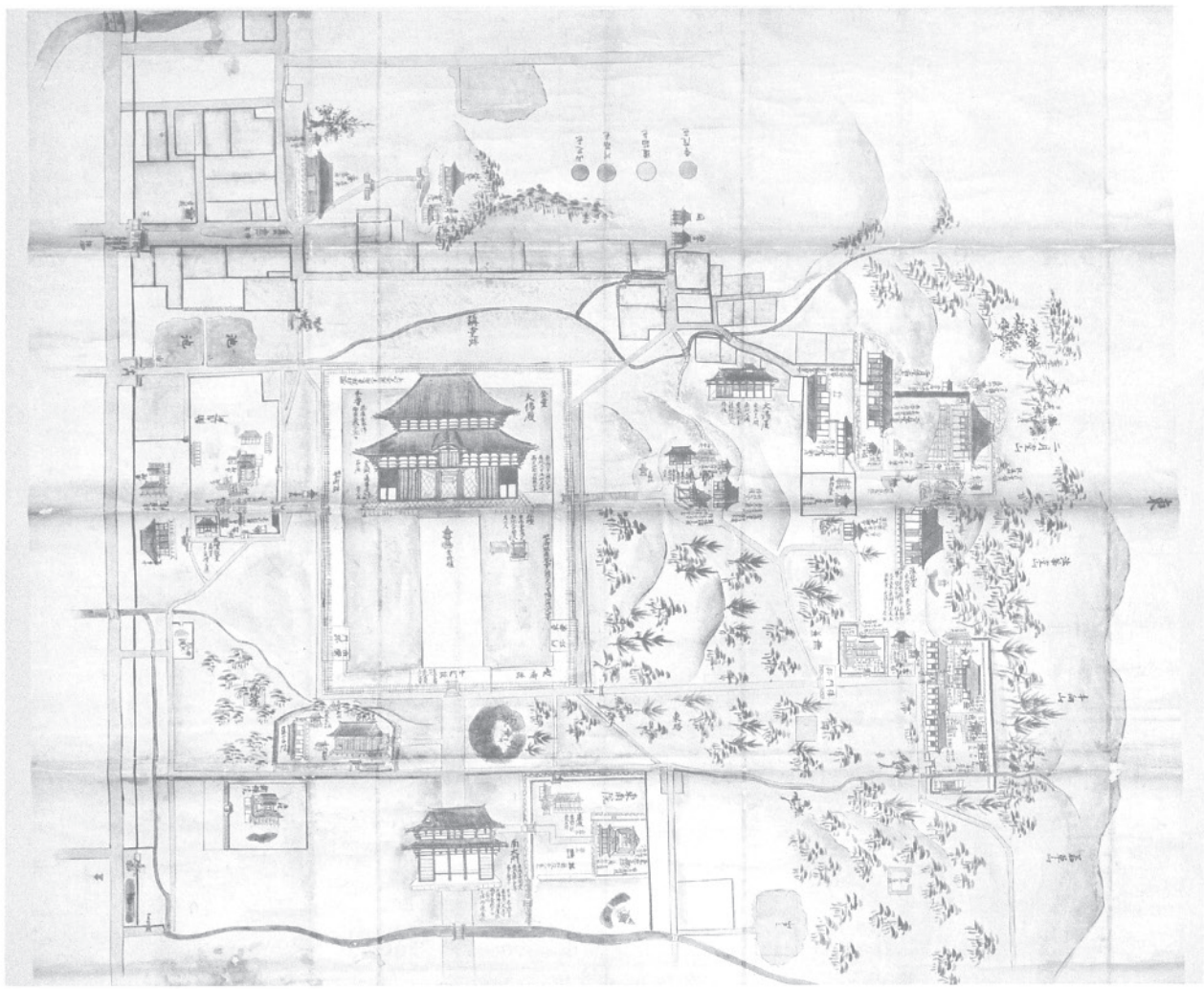


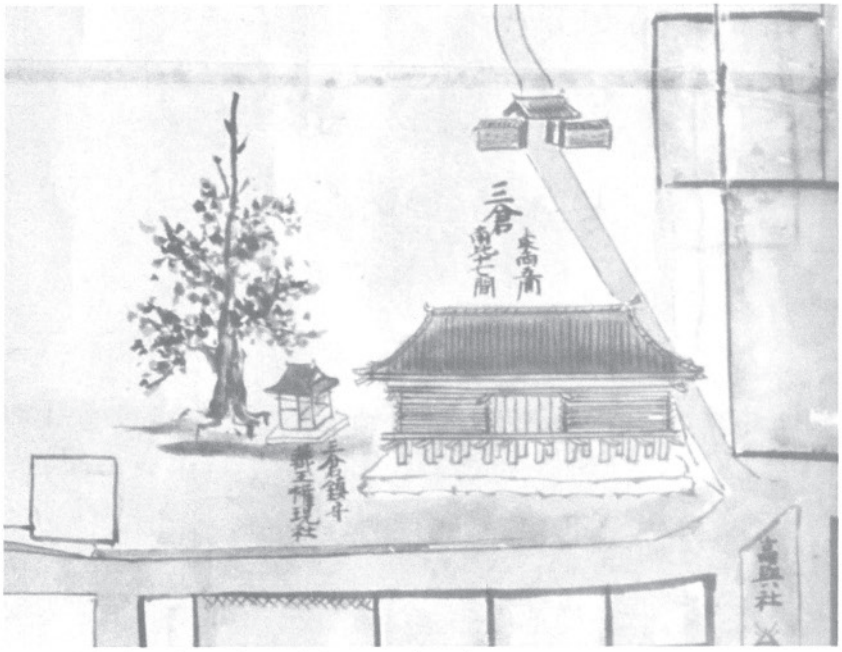
235　東大寺寺中寺外惣絵図

正倉は西向きを描き、「三倉」と表記されている。その脇には「蔵王」として杉本神社も見える。十七世紀前半の様子を描く。紙本墨画淡彩。（東大寺所蔵）

236　奈良町絵図

十七世紀後半の東大寺を描く。正倉は「三ツ倉」と書かれ、やはり西向きを朱塗りに描かれる。杉本神社は描かれていない。紙本著彩。（東大寺所蔵）

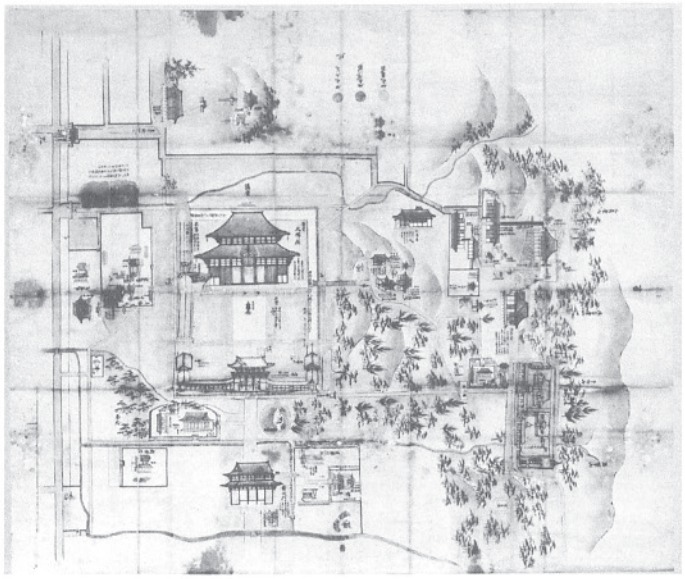


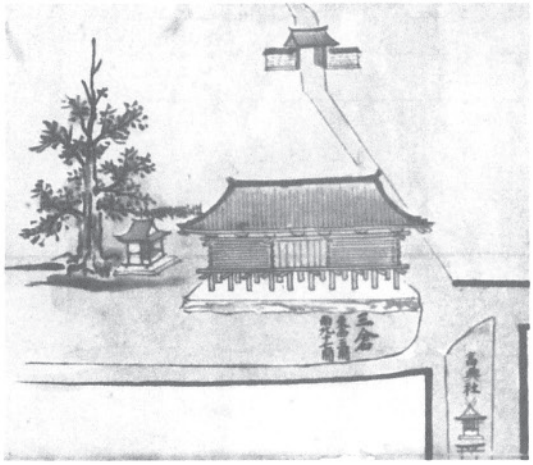


237 東大寺境内図（上：全体、下：部分）

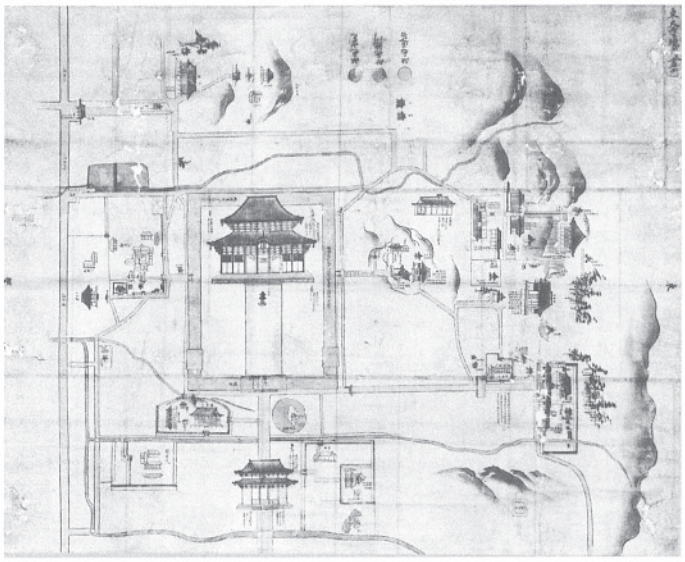
十八世紀初めの東大寺を描く絵図で、江戸時代初期の正倉の様子が表されている。正倉は「三倉東西五間南北十七間」と書かれ、扉のない西向きが描かれる。北には杉本神社と大木が描かれて「三倉鎮守蔵王権現社」と記されている。この絵図は、大仏殿は再興されているが、中門や回廊がまだ再建されていない時期を描く。現在の大仏殿は宝永四年（1707）再建、東大寺中門は正徳四年（1714）再建、東西楽門は享保四年（1719）再建、更に手向山神社の本殿再興は元禄四年（1691）という年代観からして、大仏殿再建直後、十八世紀初めに描かれたものと思われる。東大寺には、これと同じような絵図がほかに3枚残されている。それらは、この絵図と同じかあるいはやや後の状態と思われるが、ともに十八世紀前半の東大寺を描くと思われる。紙本彩色。（東大寺所蔵）

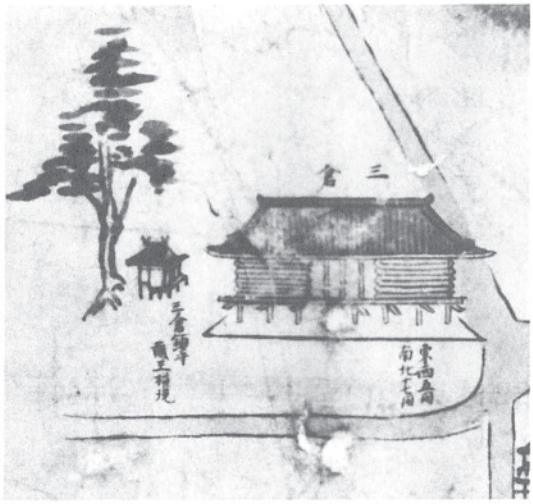
A



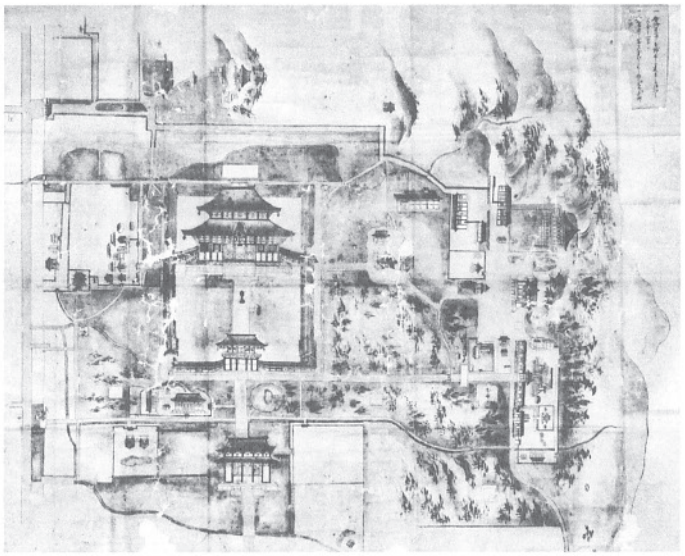


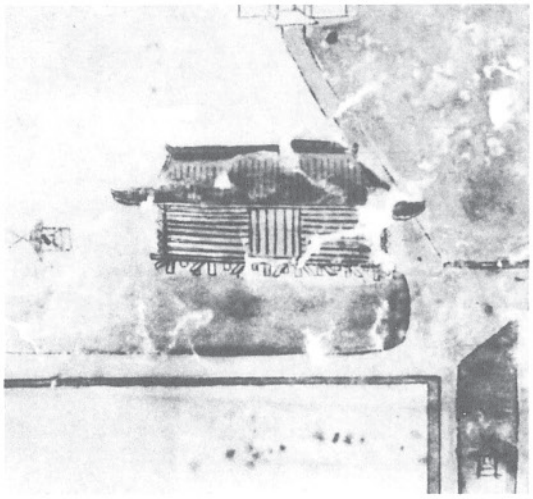
B





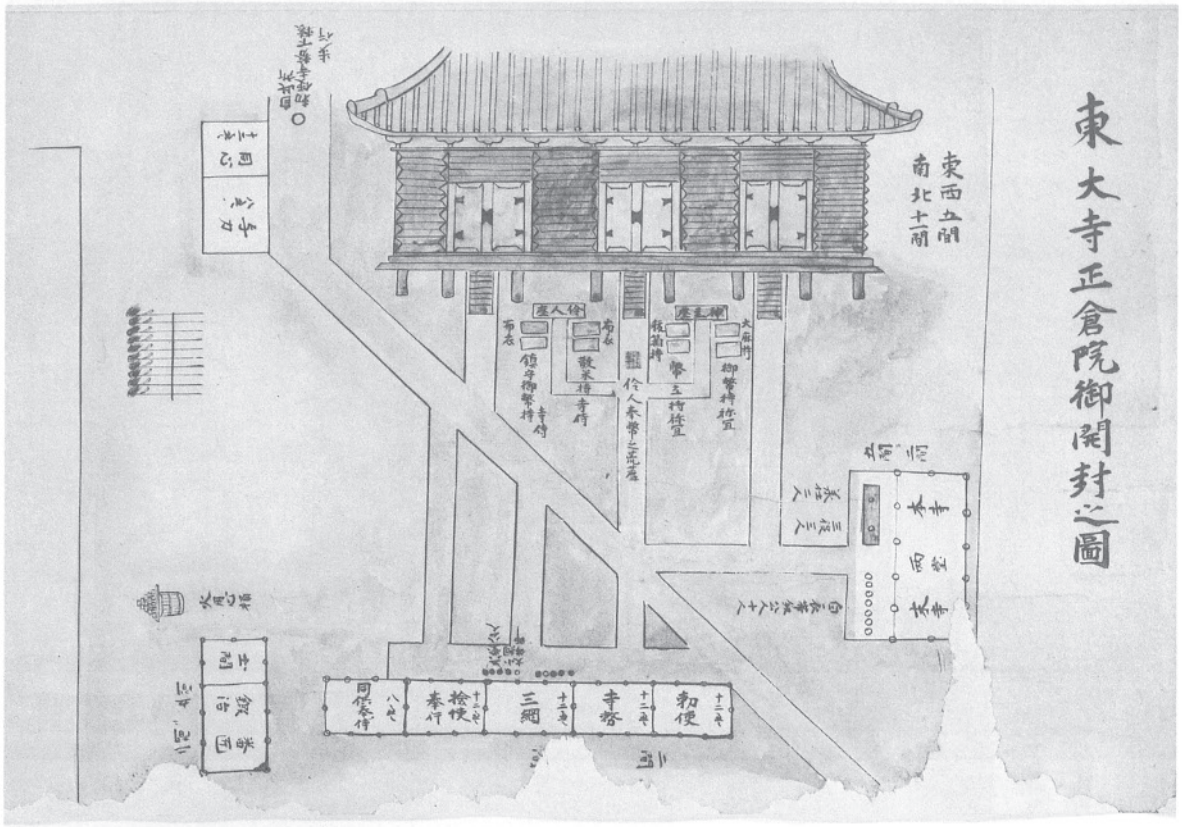
C





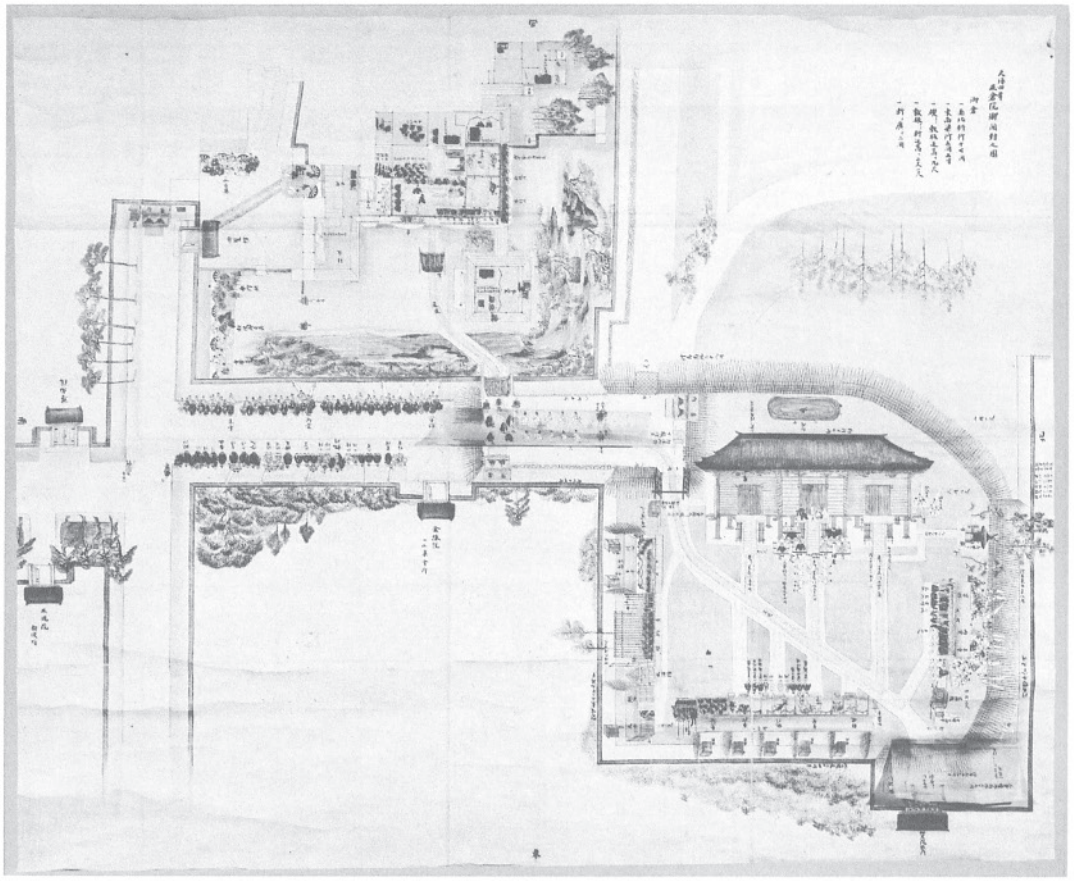
238 東大寺境内図の比較（左列：全体、右列：部分）

図版写真237に類する３枚の東大寺境内図で、どれも十八世紀前半を描く。Ａ・Ｂは237とほぼ同じ状況を描くが、Ａは貼紙にて中門などが描かれる。Ｃのみ中門及び回廊が描かれていて、この中では最も新しい状況を描いていることになる。正倉は、Ａ・Ｂは237と同じく「三倉東西五間南北十七間」と記され、Ｃには文字の記載がない。正倉はどれも西向きが描かれる。杉本神社も大木とともに描かれ、Ａは「三倉鎮守蔵王社」、Ｂは「三倉鎮守蔵王権現」と記し、Ｃには文字の記載はなく絵も粗い。ともに紙本彩色。（東大寺所蔵）



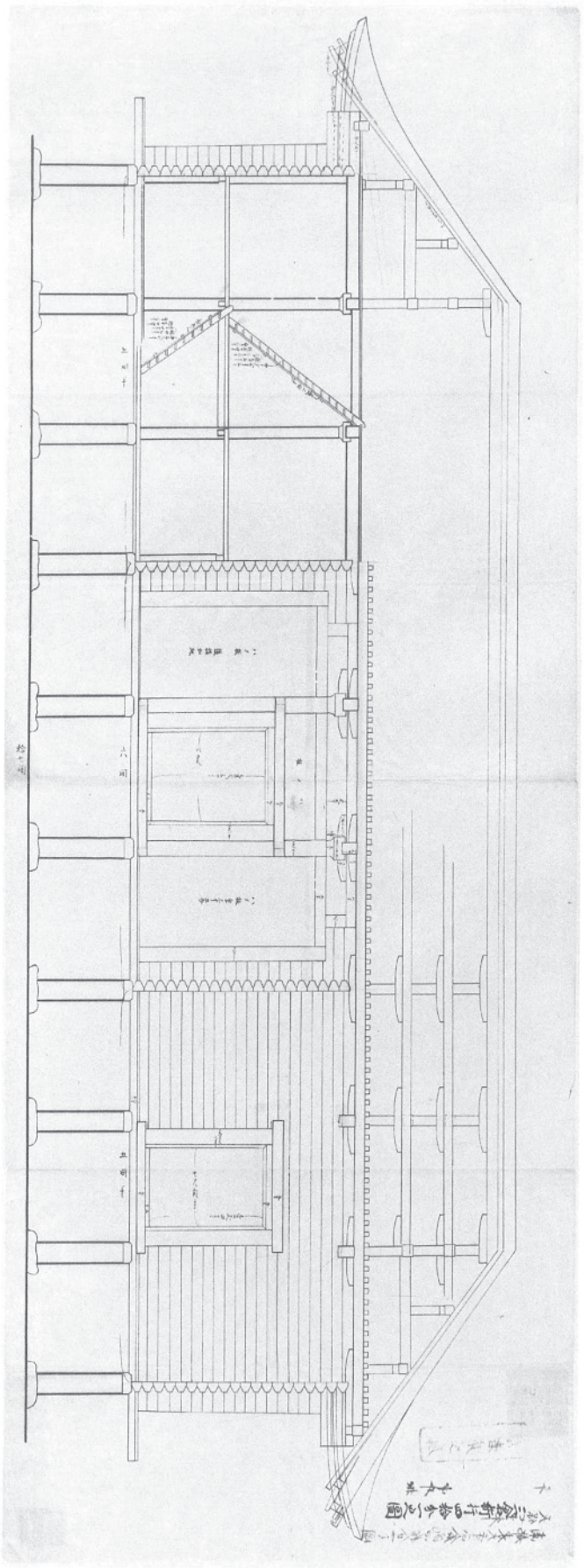
239　正倉院開封之図・同行列図

各倉を校倉に描き、柱間数も異なるなど描写は正確ではない。本巻は、巻末裏の貼紙や文政二年（1819）修復の抜書によって、破損した寛文六年（1666）時の図に新たに図を加えて修理したものであることがわかる。巻子本。彩色。（東大寺所蔵）



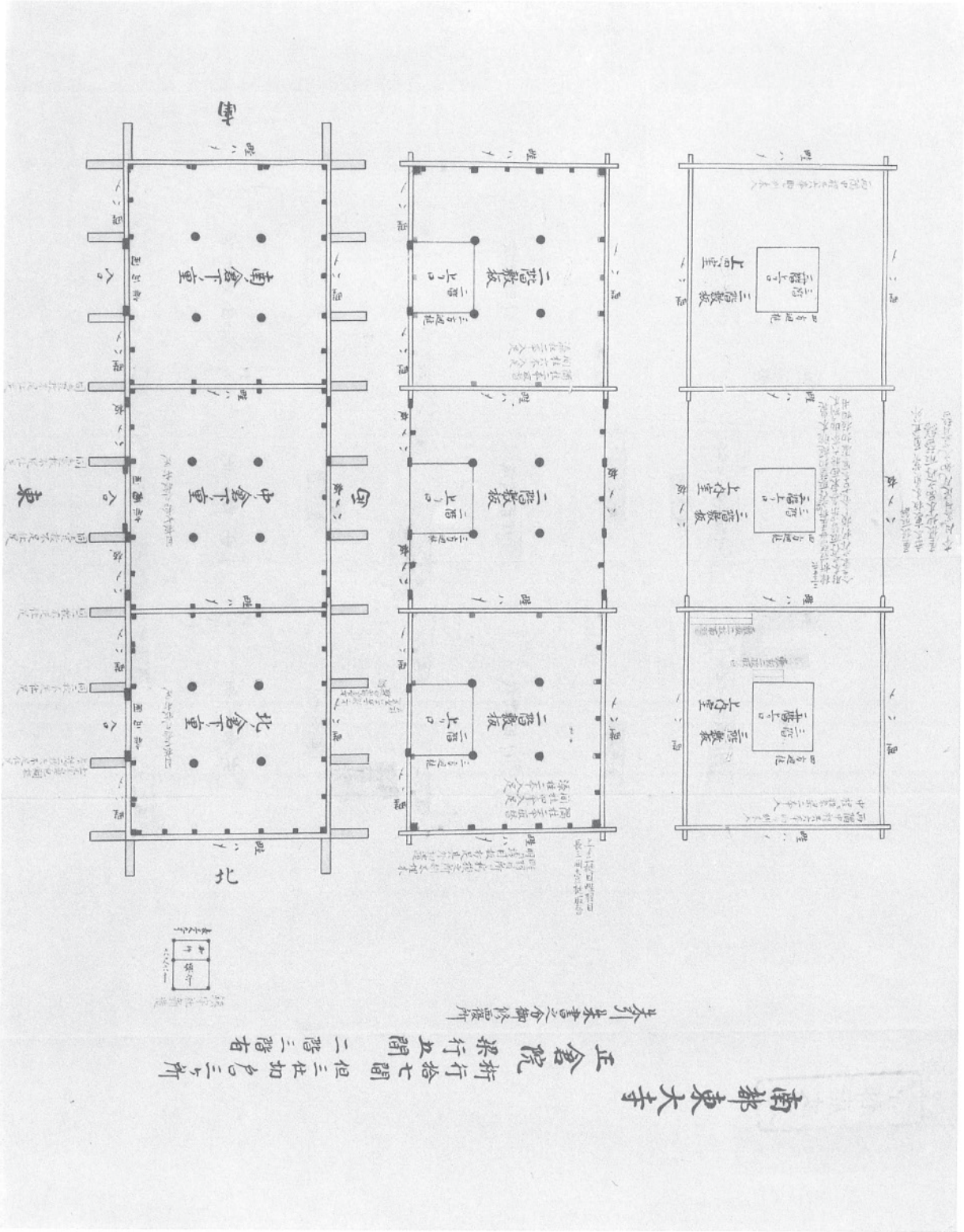
240　天保四年正倉院開封図

天保期の正倉院開封の様子を描く。正倉は、南倉・北倉を校倉に、中倉を板倉に描くなど描写は正確で細かい。（東大寺所蔵）



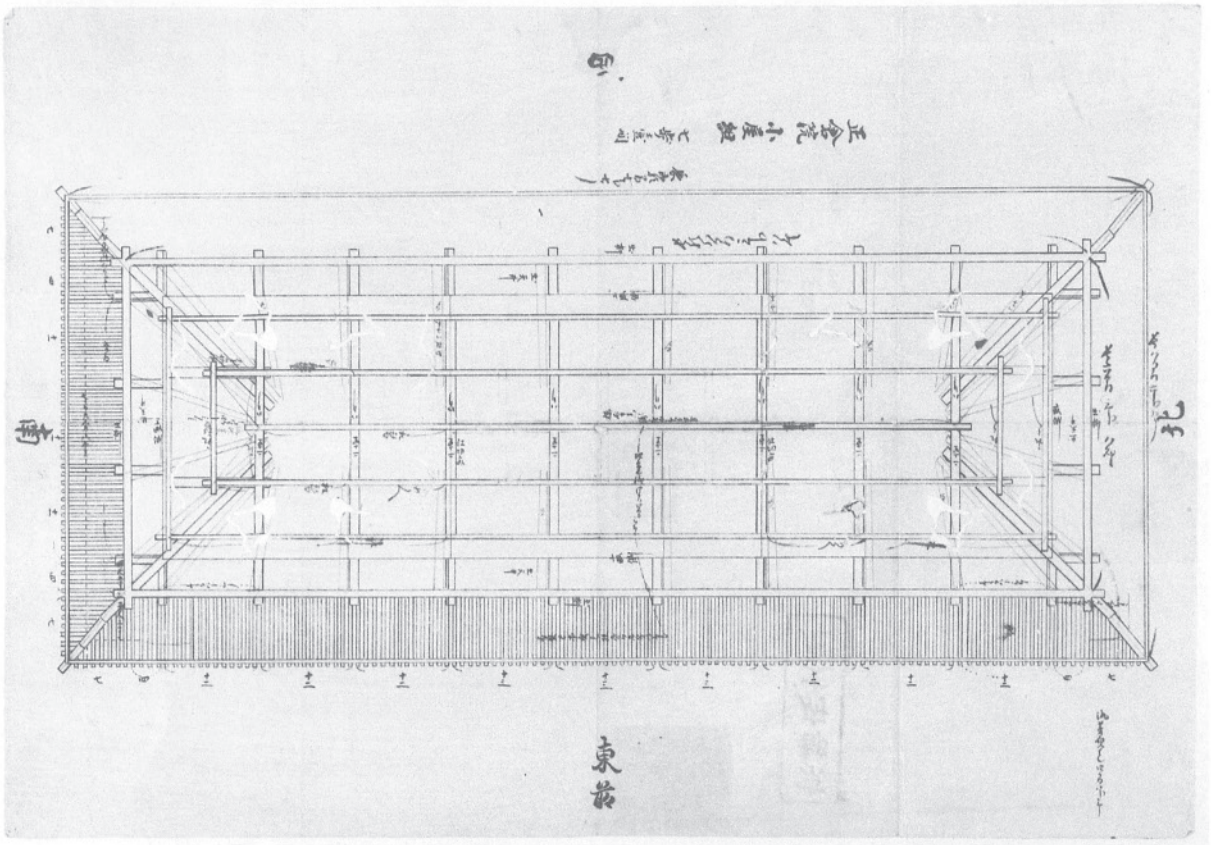
241　南都東大寺正倉院四拾分一之図

天保七申年の年紀があり、内題に「三倉桁行四拾分一之図」とある。中井家文書の一部で、当時の修理は中井役所が関係していたことがわかる。朱書で南妻に桔木が描かれており、この修理の際、軒の補強に桔木が挿入された可能性がある。（京都府総合資料館所蔵）



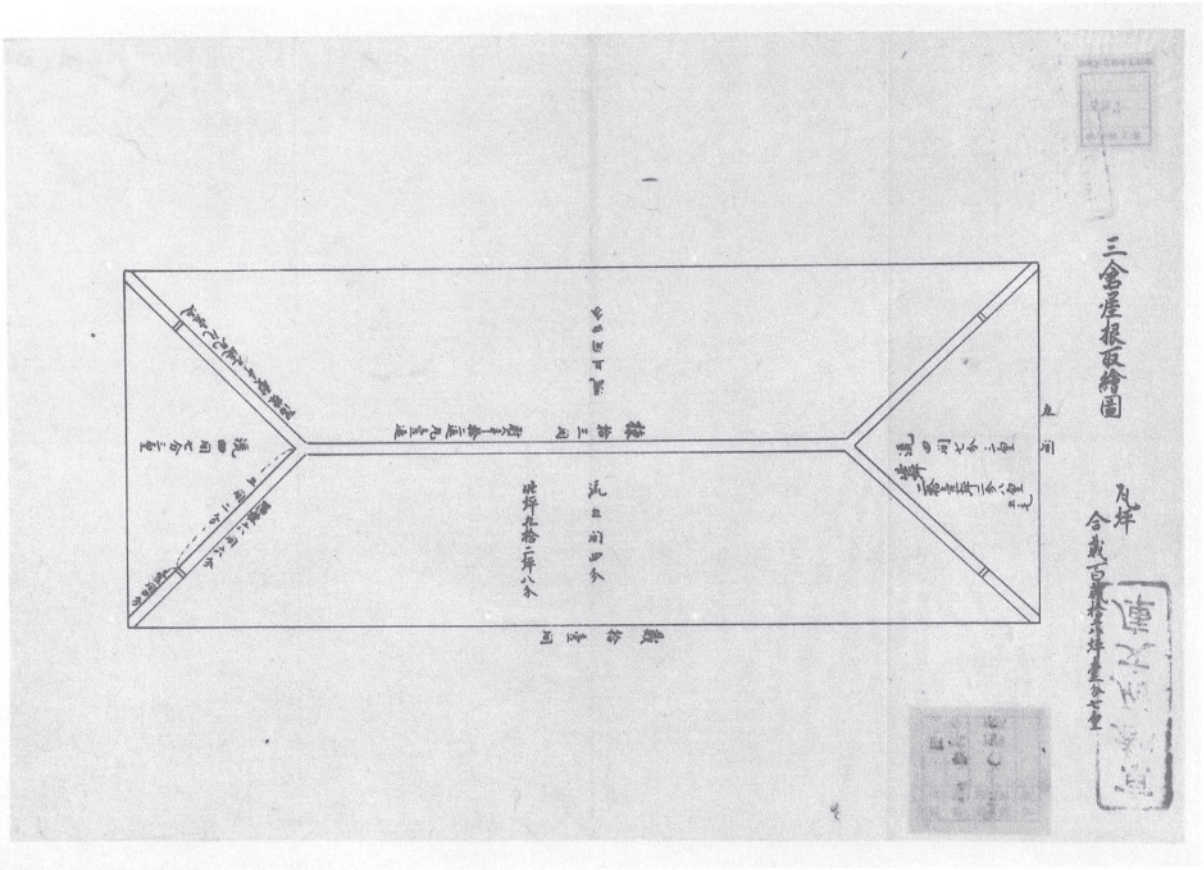
242　南都東大寺正倉院絵図

図版写真241と一連の文書と考えられる絵図。原稿や校正の図と合わせて同じ内容が３種類あり、そのうちの清書と思われるものがこの図である。図中に「朱引朱書之分御修覆所」とあって、修理箇所を細かく記入しており、当時の修理の様子がわかる。（京都府総合資料館所蔵）



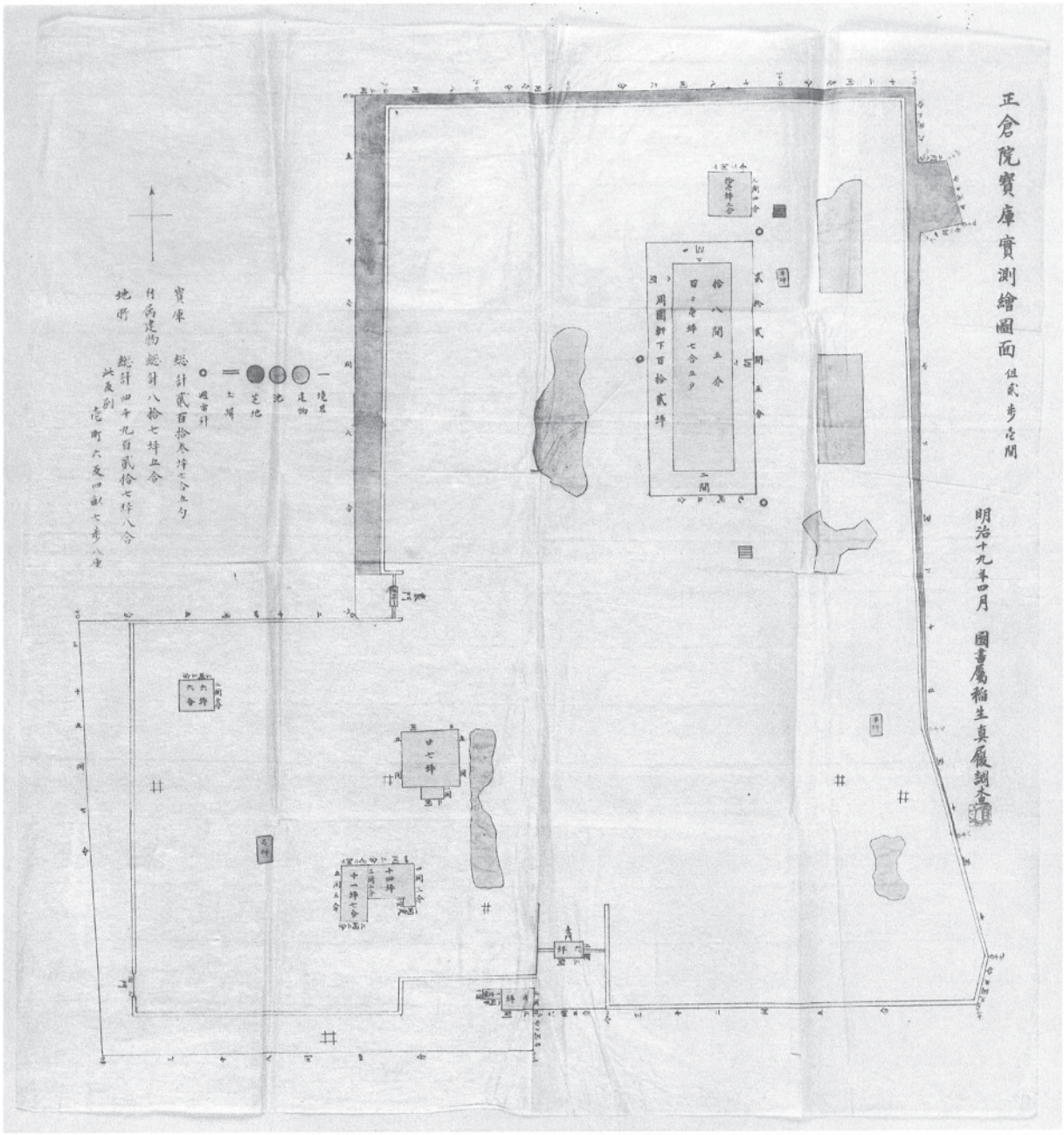
243　正倉院小屋組

図版写真241と一連のものと考えられる絵図。小屋組の修理箇所を細かく記入しており、朱書で桔木の追加を記すなど、図版写真241の描写と一致する。その中には予定していたものを取り止めたという意味の「止メ」という記載も見られる。（京都府総合資料館所蔵）



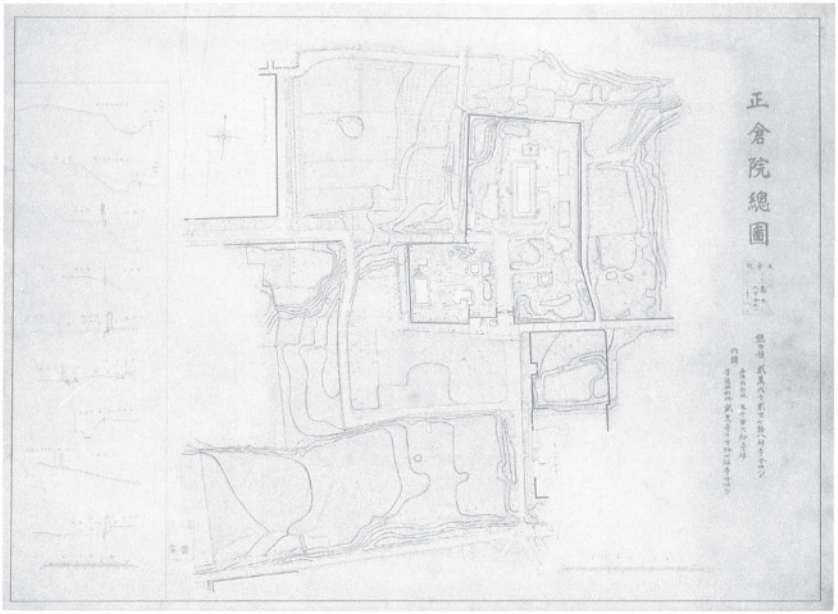
244　三倉屋根取絵図

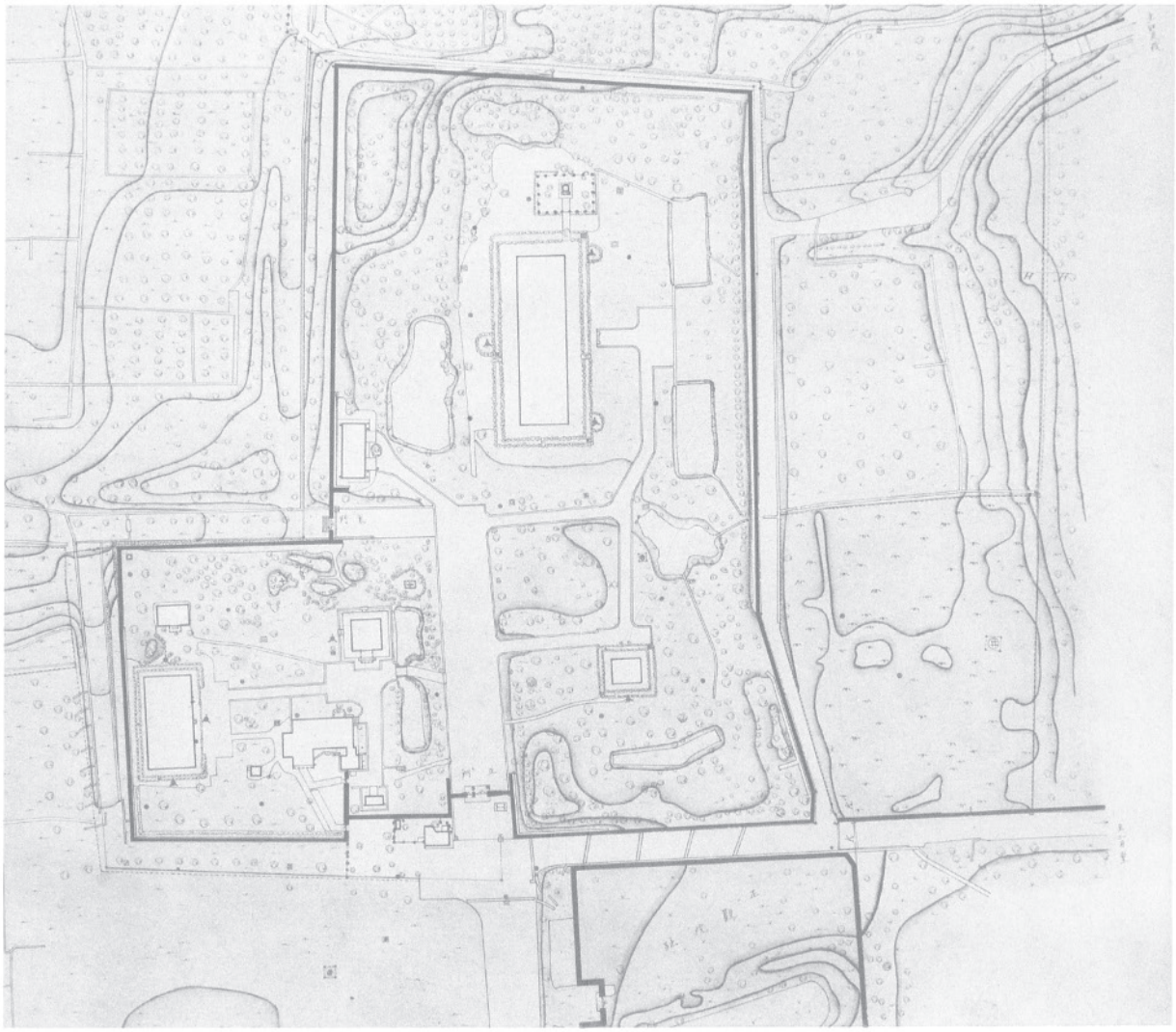
図版写真241と一連のものと考えられる絵図。内題に「三倉屋根取絵図」とある。屋根の規模を測ったものと思われ、修理内容などの記述はない。（京都府総合資料館所蔵）



245　正倉院絵図

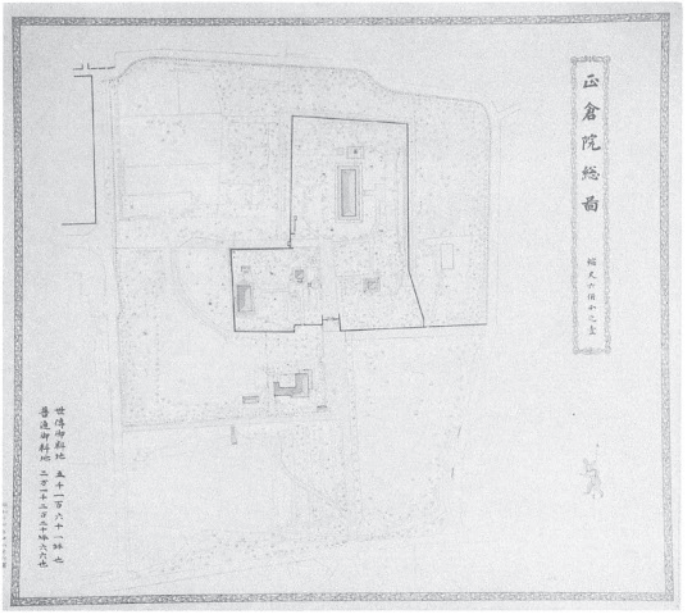
内題に「正倉院宝庫実測絵図面」とあり、「明治十九年四月」（1886）の年紀がある。正倉を含めた敷地の実測図で、この頃には、現在の区画に近い囲いが設けられていたことがわかる。敷地内に持仏堂はあるが、聖語蔵はまだない。聖語蔵が移築された後の絵図もあるが、そちらには年紀がない。
（東京国立博物館所蔵、「正倉院絵図」、Image：TNM Image Archives）

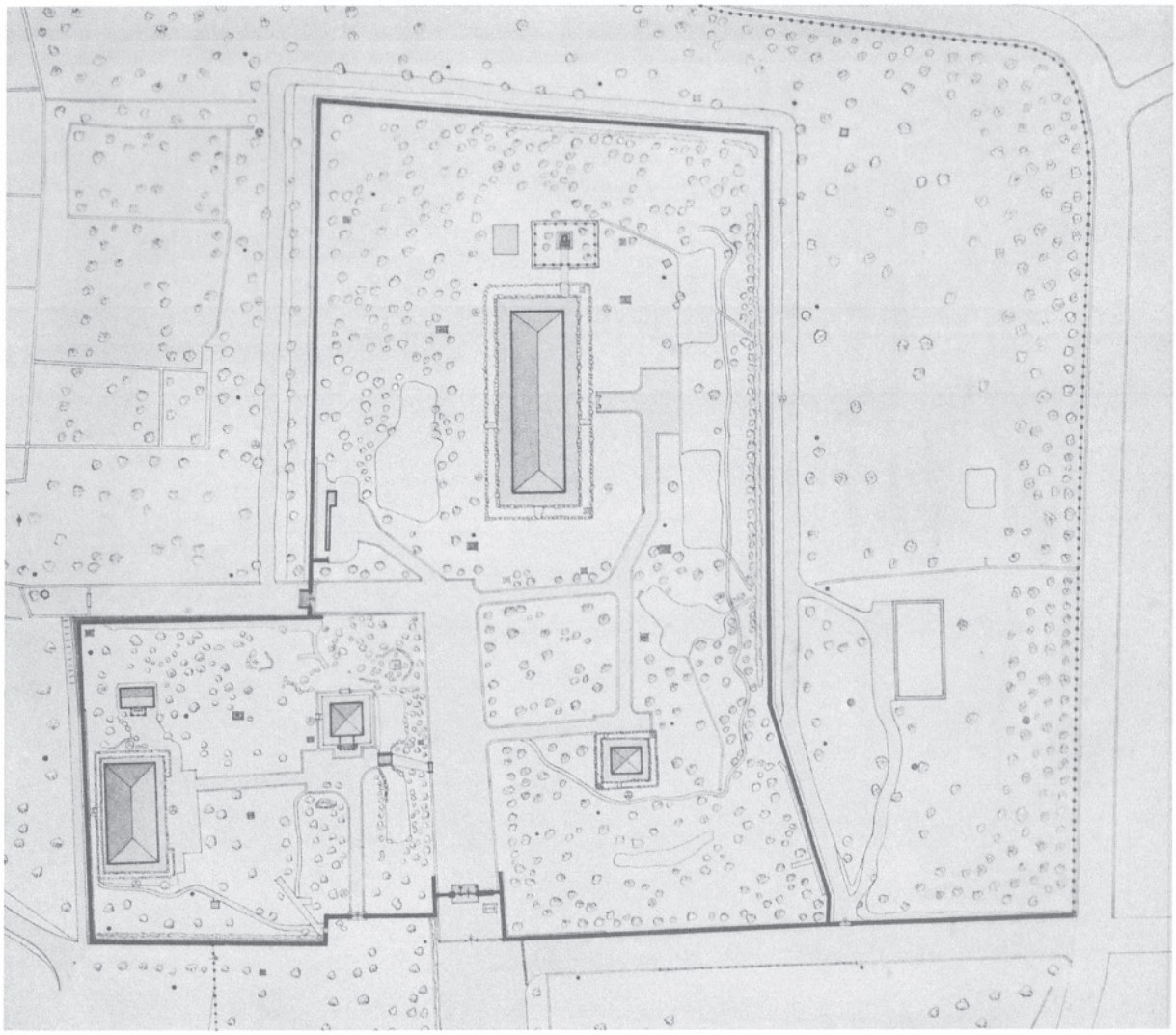




246 正倉院総図（上：全体、下：部分）

大正十二年（1923）の敷地図である。この頃には、仮庫が建てられ、宝庫西門が現在の西土塀と同じ通りまで西に動いたことがわかる。南土塀も門を挟んで東へ延長されているが、この門は今は存在しない。ケント紙墨入れ着彩図面。（宮内庁京都事務所所蔵）





247　正倉院総図（上：全体、下：部分）

「昭和十四年十二月」（1939）の年紀がある図。周辺までほぼ現在と同じ区画になっているが、敷地東南隅に竹藪門はまだない。ケント紙墨入れ着彩図面。（宮内庁正倉院事務所所蔵）